

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300743		
法人名	医療法人社団 青藍会		
事業所名	ハートホーム平川グループホーム		
所在地	山口県山口市黒川729-2		
自己評価作成日	平成24年5月2日	評価結果市町受理日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年5月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、一人一人の利用者様にあったペースで、できる範囲で料理を手伝っていただいたり、洗濯や掃除などの家事をしていただいたり、得意なことや好きなことを継続して頂き、職員と一緒にゆっくり楽しく生活して頂けるよう努めています。また、かつりよくあふれる生活が送れるように家庭菜園や買い物、アニマルセラピーを生活に取り入れています。季節に合わせた壁紙づくりや年中行事、花や緑あふれる庭などにより、季節感を十分に感じていただけるようにも配慮しています。医療面でのサポートもあんの循環器内科や協力医療機関との連携により迅速な対応ができ、緊急時なども安心です。定期的な訪問診療や看護師との連携も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部研修は段階に応じ、勤務の一環として受講の機会を提供され、月1回の法人研修への参加、内部研修は月1回のミーティング時の他、職員の介護技術のレベルアップを図るために介護技術の研修を実施するなど、職員が働きながら学べるように支援しておられます。パソコンを使用して個別に学ぶシステムも取り入れられています。ボランティアの訪問も多く、ボランティアの出し物の後におやつ作りをされるなど、利用者はボランティアと一緒に楽しみながら、ひと時を過ごしておられます。法人の医療機関と連携し、緊急時の対応、定期的な往診、その他の医療機関の受診支援に対応され、利用者と家族の安心につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は、利用者様が認知症を超えて、その人らしく安心した毎日を過ごせるように最善をつくします」という独自の理念を作成し、実践に努めている。ミーティングで理念の確認も実施している。	地域密着型サービスとしての独自の理念を作り、ミーティング時に話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、絵画教室などボランティアを受け入れている。毎年、地区の納涼祭を実施し、地域とのつながりをもてるよう努めている。併設事業所の利用者様と合同での行事も実施している。	自治会に加入し、職員は総会への出席や自主的に、清掃活動に参加している。ボランティアの訪問や散歩時の交流、法人の納涼祭への地域住民の参加等で地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、学生の体験学習、ヘルパー実習生の受け入れを積極的に行っている。毎年、納涼祭を開催し、たくさんの地域の方々に参加していただいている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員は業務改善ミーティングの中で自己評価、外部評価についての理解を深め、評価結果についても話しあい、具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解して、全職員で自己評価に取り組み、日々のケアの見直しや問題点、課題などについて具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター職員、ご家族、管理者等で2ヶ月に一回開催している。サービス提供状況や現状、事故やヒヤリハットの報告や参加者から意見をいただき、サービスの向上につなげている。	2ヶ月に1回開催し、行事報告やヒヤリハット、事故報告について話し合い、参加者からの意見、助言等をサービスの向上に活かすように取り組んでいる。利用者の全家族に案内を送付し、昨年よりは多くの家族に参加が得られているが、地域住民の参加は少ない。	・地域メンバーの拡大の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを利用し連携を図っている。介護相談員派遣事業や市の実地調査等の際も実状やケアサービスの取り組みを伝えている。	運営推進会議の他、市の担当課には毎月の手続き等で出むき、情報交換をするなど連絡を取っている。電話や法人を通じても協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや回覧文書等で身体拘束についての理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。施錠に関して、日中は常時開放している。	マニュアルと指針を作成し、法人研修や内部研修で学び、職員は正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、管理者が指導するなど日頃から取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。外出傾向の把握に努めたり、見守り方法を工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は毎週一回、ハートホーム平川管理者ミーティングの中の高齢者虐待防止委員会に参加、虐待防止に努めている。職員も業務改善M等で虐待防止について学ぶ機会をもっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署内ミーティングや回覧文書の閲覧(介護技術基礎研修)により知識を習得し、理解を深めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定の際、十分な説明を行い、疑問点なども尋ね、納得していただいた上でサービスを受けていただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の訪問時に意見や相談、苦情を聞き運営に反映させている。玄関にご意見箱も設置している。苦情相談窓口、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めており、入居時に説明も十分に行っている。	運営推進会議、面会時、電話等で家族の意見、要望を聞いている。玄関に意見箱を設置し、相談窓口、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きも明確化している。出た意見は、ミーティングや運営推進会議で話し合い、運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、業務改善ミーティングを実施し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。また、共有ノートを活用し、意見を聞く機会も設けている。管理者は随時、面談も実施し、職員の意見を聞くようにしている。	毎月の業務改善ミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。浴室に新たな手摺りの設置や職員も一緒にお茶の時間を楽しむなどの提案を反映させている。管理者は日常的にも意見を聞くようにし、職員間の共有ノートも活用して意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に応じた仕事内容、安心して働ける職場環境作りに努めている。職員一人一人が年二回、個人目標を設定し、向上心、目標をもって働けるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年二回、人事考課を実施し一人一人の力量を把握している。毎月実施される法人内研修に全員参加を部署目標としている。また外部研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングすることを進めている。	外部研修は職員の段階に応じ、勤務の一環としての参加の機会を提供し、受講後は業務改善ミーティング時に復命報告をしている。月1回の法人研修への参加とパソコンを使っての研修、月1回の内部研修などの学ぶ機会があり、働きながらのトレーニングしていくことも進めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護施設部会に参加したり、二ヶ月に一回実施の法人内施設系ミーティングに参加し情報交換、交流をしている。山口県グループホーム宅老所協会に加入している職員もあり、同業者との交流の機会をもっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	穏やかに落ち着いて生活できる環境作りを行い、出来る限り今までの本人の生活リズムに合わせた対応を心がけている。声かけは特に意識的に多く実施し、声を聞きながら不安の軽減、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への説明、確認、承諾を経てサービスを開始し、家族の来訪時や電話があった際には状況を報告している。グループホーム便り、運営推進会議でも近況等を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の話し合いや、入居後も家族来訪時等に話し合いを行い、必要なサービスは提供できるようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの際は切り方、盛り方を教わったり、畑作りの際には畑、栽培の知識を教わったりしている。将棋の得意な利用者様には指しながら習ったりと共に暮らす者同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や行事への参加を呼びかけている。余り来訪されないご家族にはできるだけ電話をする機会を設けて日頃の状況等を伝え、共に本人を支えていく関係を築いていくよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き、近所の喫茶店やショッピングセンター、かかりつけ眼科、行きつけの美容院に行くなど馴染みの関係が途切れないようにしている。以前、住んでおられた場所にドライブに行くこともある。	知人、友人の訪問、行きつけの美容院の利用、喫茶店に出かけたり、自宅周辺のドライブなどの支援や家族の協力を得ての外出、外泊、外食へ出かけている。年賀状や電話での支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間トラブルには席を配慮したり、職員が間に入ることにより適宜対応している。孤立しがちな方に対しても、一日の間少しでも皆の和に入れるようレクへの誘導等工夫、配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に相談を受け付けるをことを説明し、これまでの関係性を大切に、必要時に応じ相談、支援に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日常会話、表情、行動などから意向の把握に努めている。ケアプランに本人、家族の意向を記入し、意向に添ったプランを立てている。	入居時に家族や利用者からの情報を聞き取り、日々の関わりの中で思いや希望を聞き、経過記録や申し送りノートに記録し、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族来訪時に今までの生活歴や生活環境、趣味趣向を聞き、その方にあったサービスが提供できるように努めている。ご本人との日常会話の中からも、これまでの暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人にあった生活ができるよう職員間で情報を共有している。カンファレンスでもその方にあった生活を検討し、状態変化等の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは電話や来訪時に意見や希望を聞き、主治医からは訪問診療時に、職員からは主にカンファレンスや申し送りを通じて意見を出してもらい、現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族、主治医の意見を聞き、それぞれの思いを反映しながら、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行って介護計画を作成している。6ヶ月毎の見直しや、状況変化などに応じて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人一人の経過記録を記入し職員間で情報を共有している。全職員が記録確認後、押印している。変化や特記事項があれば、その都度話し合いをし、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の申し送りやカンファレンスにて日々の変化に対応している。家族来訪時等に意見を聞くようにしている。また情報共有ノートも使用し、日々職員の意見を聞き出し柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ利用者様と一緒に近所のスーパー等買い物に行くようにしている。行きつけの美容院にも行っている。天気の良い日は近所を散歩するようにしている。外食をすることもあり、毎日の生活を楽しんでいただけるよう努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で納得が得られたかかりつけ医への受診支援を行っている。あんの循環器内科以外にも歯科往診や入居前からかかりつけの眼科等への定期受診など、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に本人、家族の同意を得て、協力医療機関がかかりつけ医となっている。月2回の往診、体調変化の対応や歯科、眼科などの受診の支援をして、受診結果の共有をするなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時や体調不良時などは医療連携の看護師や主治医に報告し早期に対応している。急変時には併設事業所の看護師にも応援要請できる体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、入院中でもできるだけ面会に行き、病院関係者との情報交換や相談により安心して治療が受けられるように、また早期に退院できるようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書の中で重度化した場合における対応について説明している。また終末期については事前指定書を記入していただいている。部署内ミーティングでも終末期についての勉強会等を実施することにより方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の指針があり、入居時に説明している。勉強会を開催し、看取りについて学んでいる。重度化した場合には、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、情報を共有し支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット提出により危険を予測する目を養い、事故を予防していくことを部署目標としている。急変、応急手当や初期対応の訓練も部署内ミーティングなどでを行い、職員全員が対応できる実践力を身につける機会を確保している。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、対応策を検討して、職員間で共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。救急救命法、AEDの使用訓練や初期対応について研修を重ね、実践力を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年二回避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練やe-learningを使用した訓練も実施している。運営推進会議で地域との協力体制も築いている。	消防署の協力を得て、年2回夜間想定を含む避難訓練や消火器使用訓練を実施している。避難場所などについて運営推進会議で話し合うなど、地域との協力体制を築いている。風水害時の避難、備蓄についての確認もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務改善ミーティングや申し送り時など、利用者様一人一人の尊厳やプライバシーを損ねない声かけ方法を指導している。また、気になる対応をしている職員がいれば適宜注意、指導をしている。	マニュアルがあり、研修やパソコンを使つての自主学習をして、職員はプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。不適切な言葉や対応等があれば管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物に行ったときは服や食べ物など本人の希望を聞いて購入している。日々のお茶の時間には飲みたい飲み物の種類を聞いている。トイレ誘導や入浴も本人の自己決定ができるように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など、その方の生活リズムに合わせた支援に努めている。入浴も一人一人のペースに合わせ、ゆっくり気持ちよく入浴できるように対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望時や必要時に買い物に行き、本人の好きな物を職員と選び購入している。また、ご家族から送られてきた服も着ていただき、ご本人に喜んでいただいている。化粧の支援も行い、おしゃれを楽しんでいただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人からの配食を利用。盛りつけなど、できることをしていただき、利用者と職員が一緒に食事準備、片づけをするよう努めている。月一回は利用者様の希望や季節感のある食事作りを食材購入から実施し、食事を楽しんでいただいている。	法人からの配食を利用している。事業所でご飯を炊き、利用者は、職員と一緒に盛り付けや後片付けをしている。月1回は献立の希望を聞いての食事作りや畑で収穫した野菜を使つての調理、おやつ作りをしている。出前の寿司をとったり、外食するなど、食事を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分摂取量をチェック把握しており、増減に応じて適宜対応している。配食の献立は法人の栄養士が作成している。水分摂取量を増やすため、個別に水分摂取量を増やす方法などを工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、一人一人にあった口腔ケアを実施している。夕食後は義歯を毎日洗浄剤につけている。歯科往診時には口腔ケアの指導も受けている。一日一回は実施しているが、毎食後は実施できていないことも多い。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表等で排泄パターンを把握し、オムツの検討や誘導時間などを話し合い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。オムツ外しに向けた取り組みも実施して行く予定。	排泄チェック表を使い、習慣やパターンに応じて声掛けや誘導をし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援を行っている。排泄についての勉強会も実施している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量、食事摂取量の把握を行い、便秘がちな方は牛乳を多く進めたり、活動量を増やすように働きかけている。ただ、実際は下剤に頼っての排便コントロールが中心になっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望やタイミングを大切に、ゆっくり落ち着いて入浴できるように支援している。清拭や足浴も実施している。入浴剤も使用し、会話も楽しんでもいただきながら入浴支援を実施している。以前に比べ、入浴拒否者が減っている。	入浴は、希望に合わせて13時から15時の間、ゆっくりと楽しめるように支援している。入浴したくない人には清拭、足浴を実施し、2人体制の入浴や入浴剤、ゆず湯等で季節感や会話を楽しむなど一人ひとりに応じた入浴が出来るように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに合わせた支援に努めている。午後から臥床の時間も設け、負担のないような対応をしている。リビングでソファーに座って休んでももらったりもし、安心して休める時間、空間を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人手渡しで確実に服薬確認をしている。服薬漏れが起きないように複数人によるチェック体制も整えている。薬情はファイルを作成し共有している。臨時薬等の情報は回覧文書ファイリングしたものを閲覧することにより確認している。訪問薬剤指導も受けている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、フラワーアレンジメントや絵画教室、歌体操を実施している。また、日々体操や貼り絵、合唱、将棋、季節の行事などを実施している。家事や畑仕事にも参加していただき、生活歴や力をいかした役割や楽しみをもち生活していただけるよう支援している。	フラワーアレンジメント、ボランティアによる(絵画教室、紙芝居、アコーディオン演奏)、音楽療法、掃除、畑仕事、食事作り、洗濯物たたみ、季節の行事(納涼祭、節分、クリスマス)や外食等、一人ひとりに合わせた楽しみごとや、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ気軽に外出する機会を増やしている。散歩や喫茶店でお茶を楽しんだり、行きつけの美容院にも行っている。外出行事でやや遠出することもある。本人の希望により萩の美術館見学にも出かけた。日用品はなるべく利用者様と一緒に近くの店に買いに行くようにしている。	犬と一緒に散歩、買い物、近くの喫茶店でのティタイム、ドライブや季節の花見、初詣など戸外に出かけている。美術館に行きたいという本人の希望を入れての個別対応や、家族と協力して外出できるように取り組んでいる。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からいつでも使える小遣いを預かり管理している。買い物に行った際は好きな衣類などを選んで購入していただいている。外食をすることもある。一人一人の希望、力に応じた買い物等の支援を実施している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった際は、話ができるように支援している。また手紙のやりとりも支援しており、年賀状も出すことができた。毎月、ご家族にグループホーム便りとして写真と近況報告、お知らせを送付している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く明るい。中庭や裏庭も整備しており、花や緑に囲まれた環境を整えている。温度管理もできている。毎月、季節感のある壁紙も製作し、壁に飾り居心地の良い空間作りに努めている。	共用空間はゆったりとした広さで、ガラス窓から中庭や裏庭の花や庭木を眺めたり、差し込む陽射しの中でゆったりと過ごせるように、ソファやマッサージチェアが置いてあり、思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には季節の折り紙作品などや絵画が飾られ、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係に配慮し、気の合う方同士で生活できるように、リビングでの席に十分配慮している。リビング以外にも、中庭を見ながらゆっくりくつろぐことができるスペースも確保している。和室もあり、状況に応じて使用していただいている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、テーブルセットやソファ、鏡台やベッド、ダンスなど使い慣れた物が持ち込まれている。家族の写真も置いてもらったりと、居心地よく過ごせるように工夫している。	整理ダンス、テーブルセット、テレビ、鏡台、時計等の使い慣れた物を持ち込み、家族の写真や花、作品を飾り、好みの物を活かして居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事作りや、洗濯物たたみ、その他家事、レクリエーション等、一人一人のできることを活かして安全に自立した生活が送れるよう支援している。大きな日めくりカレンダーや、浴室には新たに手すりを設置した。		

2. 目標達成計画

事業所名 ハートホーム平川グループホーム

作成日：平成 24 年 10 月 31 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	「運営推進会議を活かした取り組み」 運営推進会議への参加者が少ない。	会議への参加者を増やし、意見や要望を活 かしてサービスの充実、質の向上を図る。	参加しやすいよう運営推進会議と合わせて家 族交流会を実施することで参加者増を目指す。 会議、交流会の案内文を早めに送付する。ボラ ンティアの方や外部講師にも参加を呼びかけ る。面会時、家族への参加呼びかけを行う。	12ヶ月
2	14	「職員を育てる取り組み」新人職員や経験が浅 い職員が多く、介護技術的に統一されたサービ スが十分にできていない。	新人教育、職員教育を強化し、サービスレベ ルの底上げを図る。	毎月、職員会議にて介護技術勉強会を実施。 参考資料等を定期的に準備し、自主学習の機 会を確保。新人職員へのOJTを強化。リーダー を中心に職員全員で新人研修、経験の浅い職 員を教育していく。外部研修への参加機会を確 保。毎月実施される法人主催の研修会に全員 参加を目指す。	12ヶ月
3	35	「事故防止の取り組みや事故発生時の備え」 事故発生時、十分な対応が出来る職員が少な い。新人職員も多く、全体的に事故に対する認 識が甘い。	全職員、事故に対する認識の向上。事故防 止への取り組みと事故対応の実践力強化。	毎月の職員会議にて事故についての認識を高 め、その月に実際にあった事故を元に対応方 法を再確認する。介護技術勉強会等で事故発 生時の対応方法を実践に即して教育していく。 勉強会の中で看護師に知識や実践的な対応 方法を学ぶ。ヒヤリハット提出を部署目標とし、 事故の軽減を図る。	12ヶ月
4	49	「活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援」行 事や外出機会もいろいろと確保しているが、一 人一人にあった楽しみや、生活歴を活かした役 割、張り合いや喜びのある日々の支援が不十 分。もっと力を入れていきたい。	全利用者様が今以上に日々、楽しみや張り 合い、喜びのある日々を過ごすことができ る。グループホーム内の笑顔や笑い声が増 え、より穏やかな雰囲気、ストレスや不安の ない生活環境を作っていく。	一人一人にあった楽しみや張り合い、役割を探 し、より個別に深く対応していく。一人一人に あったレク、楽しみの一覧表を作成しケアに活 かす。ちょっとした散歩や外出、会話等の機会 をより意識して増やしていく。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。